

女川原子力発電所の安全対策について

- 東京電力福島第一原子力発電所事故の教訓、海外の最新知見などを踏まえ、規制が大幅に強化された新規制基準に対応するためさまざまな安全対策工事を実施いたしました。
- 万一の事故の進展に応じた対策を用意する「深層防護」と、各進展段階の対策に二重・三重の厚み（多様化・多重化）を加えることを基本的な考えとして、さまざまな安全対策に取り組みました。
- とりわけ女川原子力発電所では、日本海溝沿いの太平洋側に位置し、地震や津波の影響をより考慮する必要があるという「地域特性」を踏まえ、地震・津波対策を強化しました。

各進展段階とも、二重・三重の対策を用意

万一の事故の進展に応じた対策を用意

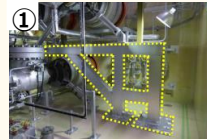
施設を守る

燃料破損を防止する

放射性物質を閉じ込める ※1

地震・津波から守る

- ① 耐震補強工事（サポートの追加など）
- ② 防潮堤の設置 他



火災・溢水への対応

- ① 自動消火設備の配備
- ② 貫通部の水密化 他



電源を確保する

- ① ガスタービン発電機の配備
- ② 電源車の配備 他



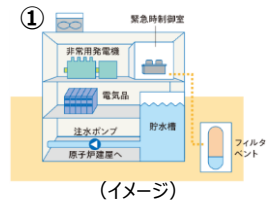
リスクに備える

- ① 緊急時対策所の整備
- ② ブルドーザの配備 他



意図的な航空機衝突等への対応

- ① 特定重大事故等対処施設 ※2



原子燃料を冷やす

- ① 高圧代替注水設備の設置
- ② 大容量送水ポンプ車の配備 他



事故の影響を抑える

- ① フィルタ付格納容器ベント装置の設置
- ② 水素再結合装置の設置 他



※1：放射性物質を閉じ込める機能を持つ「原子炉格納容器」及び「原子炉建屋」を破損させない等の対策

※2：特定重大事故等対処施設については、本体工事計画認可から5年以内となる2026年12月22日までに設置する計画